



移動教室でのカッターボート（本村小学校）

平成17年度 東久留米市教育委員会の基本方針

東久留米市教育委員会は、「教育目標」を達成するために、以下の「基本方針」に基づき、自然や文化、人々が活力ある東久留米市の特性を生かして、総合的に教育施策を推進します。

基本方針1 人権尊重及び社会貢献の精神の育成

多様な人々が共に暮らす東久留米市にあって、すべての人々が、人権尊重の理念を正しく理解するとともに、思いやりの心や社会生活の基本的ルールを身につけ、社会に貢献しようとする精神をはぐくむことが求められています。そのために、人権教育及び心の教育を充実するとともに、権利と義務、自由と責任についての認識を深め、公共心をもち、自立した個人を育てる教育を推進します。

基本方針2 健やかな心と体の育成

健全な心の発達・成長とともに健やかな体を育てるために、思いやりや道徳心などの人間性と、生涯を通じて積極的にスポーツに親しむ習慣や意欲、体力づくりへの意識を育てることが求められています。そのために、心の教育を充実するとともに、自己実現を目指そうとする意欲・態度や、自発的な精神を育成する教育を推進します。また、人々が生涯を通じて、健康に関心をもち、自らスポーツに親しみ、体力づくりに積極的に取り組む機会の充実を図ります。

基本方針3 信頼される学校(園)教育の確立

21世紀の教育改革を推進するためには、どのような変化・課題にも対応できる経営感覚に優れた組織としての学校(園)づくりと、時代感覚に富んだ教員の資質・能力の向上が必要不可欠です。そのために、地域の特性を踏まえ、市民の期待に応えるとともに信頼される学校(園)づくりを目指し、効率的で透明性の高い開かれた学校(園)経営への改革を進めていきます。

基本方針4 確かな学力の育成

主体的に生き社会の変化に柔軟に対応できるよう、子どもたち一人ひとりに基礎・基本の確実な定着を図り、知識・技能に加え、学習への意欲・思考力・判断力・表現力などの資質や能力を含めた「確かな学力」を育成することが求められています。そのために、個性と創造力を伸ばす教育を重視するとともに、子どもたちに力をつける学習指導の工夫・改善を推進します。

基本方針5 生涯学習の振興を目指した連携・協力の推進

市民の生涯を通じての学習の支援をはじめ、教育の目的と生涯学習社会の確立を実現するために、学校(園)・家庭・地域が一体となって生涯学習社会の構築に意欲をもつとともに、適切な役割分担の下で相互に緊密な連携・協力に取り組むことが重要です。そのためには、教育委員会が核となり、学校(園)・家庭・地域が互いの教育活動の状況について情報提供などの説明責任を果たしながら、それぞれの立場での積極的な参加や協力を求めていく必要があります。

東久留米市教育委員会

平成17年度 教育目標

教育は、家庭・学校(園)及び地域において、知力・体力・行動力や感性・道徳心をはぐくみ、人間性豊かに成長することを願うとともに、誰もが生涯を通じて学び、支えあうことができる社会を実現していかなければなりません。同時に、教育は、学校(園)及び家庭のそれぞれが責任を果たし、連携してこそ初めて成り立つとの認識に立って、教育に参加することを目指していかなければなりません。東久留米市教育委員会は、このような考え方に立って、以下の「教育目標」に基づき、東京都教育委員会及び他区市町村教育委員会と連携して、積極的に教育行政を推進していきます。詳しくは指導室 ☎ 70・7781へ。

自ら学び、

知を創造する人間

一人ひとりが、学ぶことで、学ぶ意欲や、自分で課の楽しさを知り、基礎・基本を習得しながら、それに基づき発想力や創造力を伸ばし、知を創造できる人を育てます。また知識や技能に加え

豊かな心と

人間性を高めていく人間

社会生活を送る上で人間として必要とされる規範意識を身に付けるとともに、自立心、誠実さ、公正さ、責任感や思いやりの心、礼儀、自然を愛する心、感動する心、生命を大切に

たくましく

成長する人間

人として創造的な活動をするために不可欠な体力を培い、人間としてたくましく成長し、充実した人生を送る人を育てます。

粘り強く行動し、

実現する人間

生涯を通じて、社会づくりの主体であるという自覚と行動力、勇気、公共心をもって、何事にも挑戦し、目標を実現する人を育てます。

運動会を参観して

教育委員長 熊谷 康



梅雨入り前の緑が鮮やかに映える中、市内の小・中学校の運動会を参観しました。初夏を感じさせる暑さに加えて、どの学校も、迫力ある競技と、それを応援する地域・保護者の温かい雰囲気がある、校庭を更に熱くしていました。昨今の学力向上が叫ばれる中、各学校ではいかに行事を精選し、授業時間を確保するか努力しています。もちろん運動会も例外ではありません。練習時間を有効に活用し、それによって質を落とさないようにと、各校が工夫を凝らしています。私も改めてその良さを感じました。それは、ある学校の児童が「赤組が勝ったのはうれいけれど、それ以上にお母さんからがんばったね、と言われたことがうれしかった。」という言葉が聞かれた時です。何十年経っても楽しい行事のひとつの運動会。こういう時代において、学校がもつ不易の大切さを感じた日となりました。

家庭教育の重要性

教育長 岡本 宏之



今年1月に実施された東京都の「学力向上を図るための調査」の結果が公表されました。小学校5年生では国・社・算・理の4教科を、中学校2年生では国・社・数・理・英の5教科を調べました。児童・生徒たちの到達度の確認に、また今後の学力向上のために有効に活用したいものです。ところで、テストと合わせて行われた意識調査の中で、注目すべきデータがありました。それは毎日しっかりと朝食を摂っている児童・生徒です。まさにこれは、「家庭での教育力の向上の重要性」に繋がっているものだと思います。休みの時こそ、規則正しい生活習慣を児童・生徒にしっかりと身に付けさせ、家族とふれあう大切な時間としていただきたいと考えています。あと数日で夏休み。家庭の出番です。

と、そうでない児童・生徒の結果に相関関係があったことです。つまり、前者の方が後者よりも高いポイントになっていました。